

(9) 巣立ち

何年か前、娘とともに高尾山周辺の山に植林に出かけた。急斜面を登るのはきつかったが、スコップで山肌を掘るのは思ったより楽だった。実際、枯れ葉が転じた”腐葉土”で覆われた斜面は軟らかく、都会の土に比べて何となくぬくもりがあることか、二人で感動した

。

この植林では、その後、小鳥に巣箱を作るのが楽しみであった。木の香りがする新鮮な板を、なれないのこぎりで切り、何とか型をとって巣箱を作った。指導者の教えで、巣箱の穴はあまり大きくしないように注意を受ける。こうして出来上がった巣箱を抱え、山の植生や山仕事の苦労話を指導員から聞きながら山を下った。

家に戻って数年、巣箱のあることを忘れてしまったが、ある日、大工道具を探している際にこの巣箱を偶然見つけ、何の気なしに、庭の百日紅の木に巣箱をくくりつけた。巣箱の位置は確か地上から 1.5 メートルぐらいのところ、小鳥が入ることはあまり期待していなかったのも、庭の飾りぐらいに思っていた。ところが、確か 2 月に入って四十雀がつがい庭に現れ、巣箱の様子を見に来ていることに気がついた。巣箱の隣にある金木犀や椿の木に隠れることができるか、どうやら探索しているらしい。そして、何日かして、つがいがその巣箱に住み着き、雛たちの泣き声ができるようになった。

3 月はじめの朝、庭で騒々しい小鳥の泣き声をして目を覚ました。巣箱を見ると四十雀の雛が巣立ちをはじめているではないか。親は近くの椿の枝に止まり大声で雛を応援しており、また、多数の雀たちが電線でピーチク鳴いてお囀子をし、さらに高い電線には烏が大きな目で巣箱を見つめている。庭では近所の猫が数匹、巣箱を怖い目で見上げている。こんな大騒動の中、数匹の雛が巣箱から少し離れた枝に飛び移り、またゆっくり時間をかけて電線に飛び移り、巣立っていった。

翌日も同じような騒動が繰り広げられたが、一匹の雛は地上に落ちて、猫のえさになってしまった。何日かして、四十雀の一家が巣箱を見に来ていたが、そのうちどこかに飛んで行ってしまったので、巣箱の中をあけてみた。中には、多数の羽でできたベッドがあり、その軟らかさに娘は驚いた。

こんなことを話題の一つにして、平成 16 年 1 月、東京都生活文化局を訪問し、グリーンコンシューマー東京ネットが NPO 法人として巣立ちしたことを報告した。

以上